



あいあい保育園の保育

自然を大切にした保育 NO2



自然の中での遊びで育まれる力を紹介します。

感性

大人でも自然環境に触れることで『安心感』や『安らぎ』を感じますよね。それは、子どもたちも同じです。自然に触れ、世界を美しく楽しいものとして感じられることは、子どもを不安やストレスから解放します。

様々な環境と向き合っていく力

子どもは、様々な感情経験を通して、周りの物やことに関わっていきこうとする『意欲』や『興味・関心』が高まっていきます。楽しさや面白さを感じるの方が良いように思われがちですが、自然の中での遊びでは『負の感情』（悲しみ、苦しみ、憎しみ、恨み、妬み、怒り、不安）もおのずと体験します。しかし、大人はつい、子どもたちにできることならこの「負・不」を体験しないで済むように先回りしてしまっていることがあるのではないのでしょうか？

現代は“不”が失われた時代であり、最も欠けている経験としてその重要さが指摘されています。自然の中での遊びを通して、あえてこのような経験をするのは、子どもが持っている本来の力を発揮させ、様々な環境と向き合っていく力を育むのです。

『怖い』という経験や、ある程度の危険を体験させることは、より大きな危険や事故を防ぐためにも大切。子どもが興味をもっていることに対して、予想されるのが小さなケガの場合は、勇気を持って見守ることも大切です。

原体験

原体験とは、五感のうち、触覚、嗅覚、味覚を意識的に体験させることで、具体的には火、石、土、水、木、草、動物の7つの自然物を五感で直接体験することです。自然の中で遊ぶことで、動物や植物、水や石や土、木、枝、葉、実などの自然物に直接触れあい、さわる、におう、味わうなどの体験を重視する「原体験」を幼少期に行うことは、「生きる力」を育むためにとても大切だと言われていています。幼少期に体験した経験は、将来大きくなってからの事物や事象の認識に影響を及ぼす意味での『原体験』となります。

幼児期ならではの感性を働かせて身近な自然に積極的に関わっていくのが大事な時期です。自然の中で遊ぶことでしか得られない経験や思い出を幼児期に親子でたくさん作りましょう。

挑戦する気持ち・基礎体力・身のこなし

自然豊かな環境は、子どもたちの『挑戦する気持ち』を引き出します。この意欲をもって取り組む「やってみよう」気持ちは、様々な遊びを通して『体力』や『身のこなし』に良い影響を与えます。身体を十分に動かす遊びや活動は、結果として基礎体力や身のこなしの能力が高まると共に、身体を動かす楽しさを感じる心が養われていきます。あいあい保育園のわくわく山で遊ぶ子どもたちは、山の斜面でもバランスを崩すことなく、大人よりも器用に山の中を走りまわっています。身体を十分に動かす遊びや活動は、結果として基礎体力や身のこなしの能力が高まると共に、身体を動かす楽しさを感じる心が養われていきます。

創造力

使い方が決まっている既成のおもちゃと違い、何にでも見立てられる自然物を使って遊ぶことで『想像力』が育まれていきます。また、季節によって変化を続ける自然は、季節がめぐると新たな自然と出会い、新たな発想に繋がっていくので会う。自然の中には既成のおもちゃが無いので、新しい遊びや自然の中での遊び方を自分たちで創り出して、イメージを広げながら遊んでいくのです。

コミュニケーション能力

大きな自然相手に、小さな子ども同士で立ち向かうことで、『協働』『協力』して遊ぶ態度や力が育まれていきます。

どのような保育環境においても、協働や協力の場面は見られますが、大人が介在せずとも、自然の中では身体レベルで協働する体験を促してくれます。

自立心

自立心って自分の事は自分でするというのですが、自然の中での遊びでも、目的のために必要なものを自分たちで探してきたり、自分たちで育てた野菜を食べられる機会を作ったりするなど、自分のことは自分でするというスタンスで取り入れることで、『自立心』が育まれていきます。

食育

自然の中で食べると、食が細い子どもでもパクパクと食べられたり、自分たちが育てた野菜だと好き嫌が多い子どもでも野菜が食べられたりします。

遊びの中に「食」を取り入れることで、『食＝楽しいもの』という意識を育てています。



またピザ
食べたいなあ

野菜を作ったら
いっぱい食べられるわ



作った野菜でクッキング



ピザ窯作りも
手伝ったよ



おいし〜い

次号『自然を大切にしたい保育
NO3』も読んでくださいね